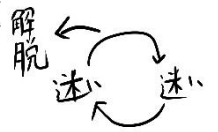


# 解げ脱だつ

仏教を理解するには、  
仏教が生まれたインド  
では輪廻りんねという考え方



が土台にあることを知ることが大切です。輪廻りんねとは、生命は生まれ変わり、今生こんじょうで何を行なったかで来世らいせが決まるといふ考えです。嘘をつけば、舌を抜かれるような地獄へ行き、浮気をすれば刃の木にいる異性を追いかけてズタズタになるといふ地獄へ行きます。また、良いことをすれば良い世界に生まれ変わりますが、完全に苦しみの世界を抜け出すことができません。

現代人では、この輪廻りんねの思想を信じることは難しいかもしれませんが、私は人間の暴走の抑制装置だと考えれば理解できるのではないかと考えています。人間は追い込まれると何をするか分かりません。年末になると、人生を投げ捨てた人がとんでもない事件を起こすことが多くなります。しかし、そこで人生を投げ捨てずに耐えれば来世では良い世界に生まれ変わることがができるのです。

この迷いの輪廻りんねを抜け出すことを解脱げだつといいます。悟りの境地です。そして、自ら解脱げだつすることが、他を導くことになるという阿弥陀仏あみだぶつが生まれました。

小さなウンが  
大きなウンに

者任取

こんなところに

# 仏教用語

身近な仏教用語  
を紹介しています。

# 結けつ界かい

西光寺にはありませんが、  
他のお寺さんに行きますと、  
本堂の中に木の柵が置いてあ



るところがあります。これを結界けっかいといいます。ここから先は○  
○な人だけが入れるという境界を作るために設置してある訳  
です。

仏教ぶつぎょうにおける結界けっかいの始まりは、戒かいを受けるときや、出家者しゅつげしやが  
自らの行いを問う布薩ふさつというときに結界が設けられ、その中で  
の独自のルールが設定されていました。修行者たちが何かを行  
いやすい場所を作り出すために結界けっかいが設けられ、そこから女性  
に対してここからは入れませんという結界けっかいが近世まで多くあ  
りました。

女人禁制にまつわる悲話として石童丸いしどうまるの話が、浄瑠璃じやうるりや講  
談かたん、歌舞伎かぶきなどでも伝えられています。

平安時代に、妻と妾の關係に悩んだ苅萱道心かきかどうしんが、法然聖人ほうねんしょうにん  
もとで出家しゅつげをします。後に高野山こうやさんに行き、妻と息子の石童丸いしどうまる  
会いに行こうとしますが女人禁制にんしの為、石童丸のみが入山しま  
す。苅萱道心かきかどうしんを父とは知らずに父の事を尋ねますが死んだと伝  
えられ、下山すると母が病死していました。悲しみの中、石童丸いしどうまる  
は再び入山し苅萱道心かきかどうしんに理由を話し、出家しゅつげをするのですが、つ  
いに親とは告げなかったというお話です。